

共通取組 重点取組	平成25年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	○ねらいを明確にし、基礎基本を確実に おさえた授業づくりに努める。 ○スキルタイム・家庭学習を効果的に活用 した読み・書き・計算力の向上を図る。 ○聞きあうことによって学びを深める授業 サイクルの構築を図る。	○1時間ごとのねらいを 明確にした授業づくりや スキルタイムの活用で、基 礎基本の確実な定着に取 り組めた。 ○課題に対してねばり強 く取り組もうとする児童 は増えてきたが、学力的に は個人差が出ている。	A B C D
2 豊かな 心	○全学級の道徳の授業を年1回以上公開す る。〔道徳の時間の充実〕 ○たてわり活動などの異学年交流を充実さ せ、主体性や思いやりの心、自己有用感を育 てる。〔体験活動の充実〕	○道徳の授業を計画的に 行い、実際の生活に生きる ように努めた。 ○計画的にペア学年活動 を取り入れ、自己有用感の 伸張に努めた。	A B C D
3 健やかな 体	○身につけたいことを明確にした運動量のある 授業づくりを進める。 ○すこやか委員会の活動を通して、健康面 での課題を明確にし、よりよい健康生活のた めに自分で取り組める土台づくりをする。 ○外遊びの活性化を図る。	○めあてを確認し運動量 のある授業づくりに取り 組めた。 ○すこやか委員会の活動 により、健康への意識化が 図れた。	A B C D
4 児童・生徒 指導	○大人の率先垂範で、あいさつを進んです る子育てる ○児童理解と対応を組織的かつ誠実に行う。 ○「学校のきまり」を周知し、全ての子が落 ち着いて楽しく生活できるようにする。	○率先垂範によりあいさ つの輪が広がった。 ○個々に寄りそった児童 理解と組織的な指導体制 を構築できた。	A B C D
教育課程 学習指導	○スキルタイムの充実やねらいを明確にした 授業により、基礎基本の確実な定着を図る。 ○展開に、話す・聞く・書く・読むの学習形 態をできるだけ取り入れ、言語活動の充実を 図る。 ○授業を通し小中一貫を進める	○全校100マス計算を 取り入れ、スキルタイム の充実を図った。 ○言語活動の充実の取組 は努力が必要である。	A B C D
進路指導	○学級活動や全校たてわり活動・ペア学年活 動の充実を図るなかで、児童が自他の役割を 理解し、責任感やコミュニケーション力、自 己有用感を育てるようになる。	○自己有用感を育てるた めに、意図的計画的に様 々な取組を実施したが、今 後も努力を続けたい。	A B C D
教職員の研 究・研修	○授業力向上や児童理解・対応の研修をメン ター研修とも関連させ、計画的に行う。 ○重点研での学びを、指導に活かし、指導力 の向上につなげる。	○メンター研修が充実し、 互いの授業力向上につな がった。 ○重点研は学年協働研究 体制が機能し、充実した研 究になった。	A B C D
人材育成組 織運営	○月1回のメンター研修を核として、授業力向 上・児童対応等の研修を行う。担当主幹教諭と まめ役の5年次教諭で推進し、講師には校内 人材の活用を図るなかで、組織の活性化にも つなげていく。 ○PDCAサイクルに則った教育活動の学校評 価を節目節目で行うことで、学校の組織力を 高めていく。 ○一人一役で仕事を分担し、大組織をリード ・運営していく力を高めていく。	○学校評価を定期的に 実施することで、一つ一つ の取組を見つめ直し、改善 する機会となった。 ○組織としての動きに重 点を置いているので、安心 して業務を遂行している。 一人一役のもと、協力して 運営ができた。	A B C D
小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	小中のつながりがつかめる授業研究になった。本校では各教科とも1時間の授業デザインをもち、ねらいを明確にした授業づくりに努めている。そのような視点をもって、ブロック内の学校に参観してもらった。有効な言語活動の在り方については、引き続き、研究を重ねてほしいという感想をいただいた。		
学校関係者 評価結果	大規模校なのによく職員がまとまっている。あいさつや自己有用感の伸張については家庭や地域とも連携し、さらに成果があがるように努めてほしい。		
評価結果に 対する 学校の見 解	各項目とも、概ね達成と捉えられるが、その中で低いのが学力形成の活用型学力にもつながる言語活動の充実である。基礎基本の定着を図りながら、「楽しい」と児童が実感できる授業づくりを今後も追究していきたい。		

学校経営 中期目標 達成状況	職員が、共通理解と共通指導方針に則って、様々な課題に対して組織的に対応できていることが、大規模校である本校の土台となっている。職員のモチベーションも高い。そういう点で、達成状況は概ね達成していると考えます。
----------------------	---

共通取組 重点取組	平成26年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	○ねらいを明確にし、基礎基本を確実に おさえた授業づくりに努める。 ○スキルタイム・家庭学習を効果的に 活用した読み・書き・計算力の向上を 図る。 ○聞きあうことによって学びを深める 授業サイクルの構築を図る。	○はじめ・なか・おわりを意識した 授業計画、板書計画を立て、はじめ に本時のねらいや学習課題を板書 することで、ねらいを明確にした授 業づくりに努めた。 ○思考力を育成する学び方について はさらに努力していきたい。	A B C D
2 豊かな 心	○全学級の道徳の授業を年1回以上公 開する。〔道徳の時間の充実〕 ○大人の率先垂範で、あいさつを進ん でする子育てる	○いのちの学習や道徳の授業を計 画的に行い、実際の生活に生きるよ うに努めた。 ○大人が率先してあいさつを行う ことで、意識を高めた。	A B C D
3 健やかな 体	○身につけたいことを明確にした運動 量のある授業づくりを進める。 ○すこやか委員会の活動を通して、健 康面での課題を明確にし、よりよい健 康生活のために自分で取り組める土 台づくりをする。 ○外遊びの活性化を図る。	○1時間の授業のねらいを明確に し、運動量の確保ができるように、 学習カードや場の工夫に努めた。 ○いきいきキッズやロング昼休み も活用し外遊びを活性化した。 ○すこやか委員会の継続した活動 により、健康への意識化が図れた。	A B C D
4 児童・ 生徒指導	○児童理解と対応を組織的かつ誠実 に行う。 ○「学校のきまり」を周知し、共通指 導方針に則って、全ての子が落ち着 いて楽しく生活できるようにする。	○指導支援専任を中心として、報 連相を密にし、組織的な児童指導 や保護者対応が実践できた。学校 のきまりを明確にし、全職員が共 通理解のもと、指導に当たっている	A B C D
教育課程 学習指導	○学年協働で重点研究に取り組み、算 数科の指導法について力量を高める。 ○小中一貫カリキュラムをもとに授業 を行い、小中の学力感や指導感の共有 化を図る。	○学年で協同研究の取り組みが継 続して実選できた。重点研では先 行授業や交換授業等も取り入れる ことで共同思考を大切にした研究 が推進できた。	A B C D
進路指導	○学級活動や全校たてわり活動・ペア 学年活動の充実を図るなかで、児童 が自他の役割を理解し、責任感やコ ミュニケーション力、自己有用感を 育てる。	○ペア学年活動は年を追うごと に充実してきている。自己有用感 やコミュニケーション力を育てる ために、意図的計画的に様々な取 組を今後もさらに続けたい。	A B C D
教職員の 研究・研 修	○授業力向上や児童理解等の研修を 実施し、現場の指導に役立つように する。 ○月1回のメンター研修と年次研修 を関連づけ、授業力向上・児童理 解等の研修を行う	○メンターチームは授業力向上 や児童理解について、実践的に学 ぶ場になっている。10年次の職 員の研修とも、密接につながり、 効果的であった。	A B C D
人材育成 組織運営	○メンター研修は、担当主幹教諭とま め役の5年次教諭で計画的に推進し、 講師には校内人材の活用を図るな どして、組織の活性化につなげて いく。 ○PDCAサイクルに則った教育活動 の学校評価を節目節目で行うこと で、学校の組織力を高めていく。 ○一人一役で仕事を分担し、大組 織をリード・運営していく力を高 めていく。	○メンター研は組織化されている。 校内の人材がうまく活用され、授 業力の向上やメンタル面でのケア にも役立っている。 ○学校評価を節目ごとに行い、次 の教育活動に活かすことができた。 ○職員は「チーム原」の組織の一員 としての、自覚と責任をもち、学 校運営に当たることができた。	A B C D
小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	授業参観を通して、小学校の重点研究で「基礎的・基本的な知識の定着」と「わかる楽しさ・できる喜び」を大切にした授業をめざして取り組まれていることがよく分かった。小学校の6年間の学習の流れを大切にしながら、中学校でも連携していきたい。		
学校関係者 評価結果	大規模校でたくさんの職員がいるのによくまとまっている。6年生を送る会を見たが、各学年ともりっぱに発表していてすばらしいと思った。中学校でもこのまま成長してほしい。		
評価結果に 対する 学校の見 解	職員の強い結束力を土台にして、来年度も様々な課題に対してねばり強く組織的に対応していきたい。原小オリンピックを起点にして一人ひとりに居場所のある学校づくりを進めたい。		

学校経営 中期目標 達成状況	校内の人材育成を図りながら、共通理解と共通指導方針に則って、組織的に対応することができている。今後も、原小オリンピック等の行事を起点にしなが、地域などにも目を向けてあいさつができるような、子どもたちを育てていきたい。また、教師がより楽しい授業づくりを目指して教材研究を行い、学力の向上・思考力の育成を図っていきたい。
----------------------	--

共通取組 重点取組	平成27年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	○ねらいを明確にし、基礎基本を確実に おさえた授業づくりに努める。 ○見通しとふりかえりを大切に した授業づくりを進める。 ○スキルタイム・家庭学習を効果的に 活用した読み・書き・計算力の向上 を図る。		A B C D
2 豊かな 心	○全学級の道徳の授業を年1回以上公 開する。〔道徳の時間の充実〕 ○大人の率先垂範で、あいさつを進ん でする子育てる		A B C D
3 健やかな 心	○身につけたいことを明確にした運動 量のある授業づくりを進める。 ○すこやか委員会の活動を通して、健 康面での課題を明確にし、よりよい健 康生活のために自分で取り組める土 台づくりをする。 ○外遊びの活性化を図る。		A B C D
4 児童・ 生徒指導	○児童理解と対応を組織的かつ誠実 に行う。 ○「学校のきまり」を周知し、共通指 導方針に則って、全ての子が落ち着 いて楽しく生活できるようにする。		A B C D
教育課程 学習指導	○学年協働で重点研究に取り組み、算 数科の指導法について力量を高める。 ○小中一貫カリキュラムをもとに授業 を行い、小中の学力感や指導感の共有 化を図る。		A B C D
進路指導	○学級活動や全校たてわり活動・ペア 学年活動の充実を図るなかで、児童 が自他の役割を理解し、責任感やコ ミュニケーション力、自己有用感を 育てる。		A B C D
教職員の 研究・研 修	○授業力向上や児童理解等の研修を 実施し、現場の指導に役立つように する。 ○月1回のメンター研修と年次研修 を関連づけ、授業力向上・児童理 解等の研修を行う		A B C D
人材育成 組織運営	○メンター研修は、担当主幹教諭とま め役の5年次教諭で計画的に推進し、 講師には校内人材の活用を図るな どして、組織の活性化につなげて いく。 ○PDCAサイクルに則った教育活動 の学校評価を節目節目で行うこと で、学校の組織力を高めていく。 ○一人一役で仕事を分担し、大組 織をリード・運営していく力を高 めていく。		A B C D
小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果			
学校関係者 評価結果			
評価結果に 対する 学校の見 解			

学校経営 中期目標 達成状況	
----------------------	--